送信ドメイン認証技術の導入状況調査の方法

１　概要

この調査は、株式会社日本レジストリサービス（JPRS）から提供を受けたドメイン名を調査するものであり、2018年1月から実施しているものである。

２　調査対象ドメイン名

調査対象とするドメイン名は、JPRSから提供を受けた、DNSで名前解決可能なJPドメイン名の全てとする。

※留意点

調査対象ドメイン名には、メールに利用しないことが明らかなドメイン名も存在するが、次のような理由から、そのようなドメイン名も含め、調査対象とする。

・　一般的なメールサーバの設定では、受信に当たり、MXレコードが引けなくても Aレコードが引ける場合には、メールの送受信を可能とする場合が多く、このような設定では、これらドメイン名からのメールであっても受信することとなること。

・　DMARCについては、当該ドメイン名について設定が確認できない場合には、組織ドメイン名などについて確認することとされていること。

・　メールに利用しないドメイン名についても、なりすまし防止のため、Null MXの設定をするとともに、送信ドメイン認証技術のうち、SPF及びDMARCについての設定をすることが望ましいこと。

３　調査方法

（１）概要

調査対象ドメイン名について、次の内容を調査する。

①　メールサーバの設定の有無

②　SPFに係る設定の有無

③　DMARCに係る設定の有無

※留意点

DKIMについては、ドメイン名のみから調査した場合には、設定していることについての確認ができない場合があり、調査結果の正確性を担保できないため、調査の対象外とする。

（２）メールサーバの設定の有無

調査対象ドメイン名について、MXリソースレコード（RR）の有無を確認する。

（３）SPFに係る設定の有無

①　調査対象ドメイン名のTXT RRを確認し、その中に、SPFレコードがあるかどうかを確認する。

②　SPFレコードの有無は、"v=spf1"という文字列の有無で確認する。

③　①及び②により、SPFレコードの存在が確認できない場合には、設定なしとする。

※留意点

・　調査においては、Sender IDに係る設定の有無の確認は、行わない。

・　記述の誤りがあるSPFレコードは、誤りが"v=spf1"部分にある場合には設定なしとなり、誤りが他の部分にある場合には設定ありとなる。

（４）　DMARCに係る設定の有無

①　調査対象ドメイン名のTXT RRを確認し、その中に、DMARCレコードがあるかどうかを確認する。

②　DMARCレコードの有無は、"v=DMARC1"という文字列の有無で確認する。

③　TXT RRがない場合やDMARCレコードがない場合には、調査対象ドメイン名に係る組織ドメイン名について、①・②と同内容を確認する。

④　①～③によりDMARCレコードの存在が確認できない場合には、設定なしとする。

※留意点

・　DMARCレコードの確認に際しては、例えば、調査対象ドメイン名がexample.jpであれば、\_dmarc.example.jpのTXT RRを確認する等により実施する。

・　記述の誤りがあるDMARCレコードは、誤りが"v=DMARC1"部分にある場合には設定なしとなり、誤りが他の部分にある場合には設定ありとなる。

４　調査スケジュール等

調査は月次で行うこととし、毎月下旬（21日～末日）に実施し、調査結果は、一定期間ごと（通常は、半年ごと）に、総務省ウェブページで公表する。